



## 山形県立中央病院

山形県立中央病院は山形市北部に位置し、田畑や健康の森公園等の緑に囲まれた場所にあります。標榜科は35科、病床数は609床で、ドクターヘリの基地を併設した救命救急センターでは、重篤な患者さんを受け入れるいわゆる3次救急医療を担っています。また、母体・胎児・新生児の集中治療管理する「総合周産期母子医療センター」、高度ながん医療に対応する「都道府県がん診療連携拠点病院」、大規模災害に備え対応する「基幹災害医療センター」、新興・再興感染症発生時等に包括的に対応する「第一種感染症指定医療機関」など社会的に重要な機能を担っています。



検査部・輸血部は臨床検査技師42名で業務を行っています。1階の正面玄関をまっすぐ進むと、採血室と隣接した検体検査室、さらに少し進むと生理検査室が配置されており、患者さんが検査をスムーズに受けられるような導線となっています。また、秘密(?)の通路の先には細菌検査室と病理検査室、3階には輸血部があります。

一般的な検査業務の他、ICT（感染制御）、NST（栄養サポート）、糖尿病教室など院内委員会での活動や、脳神経外科手術モニタリング、TAVI（経カテーテル大動脈弁留置術）に向けたハートチームへの参加など、チーム医療へ積極的に参画しています。また、2020年は新型コロナウイルスの流行により、臨床検査技師のPCR検査への業務拡大が求められていた中、当院ではいち早くPCRチームを結成し、検査機器の導入や検査手技の取得・人材育成を早急に

進め、同年7月から診断目的のPCR検査を行えるようになりました。



【PCRチーム】  
若手スタッフを中心に頑張っています！

地域の拠点病院として県民のニーズに応じた医療の提供に貢献できるよう、技師一同、日々技術の向上に努めています。